

# 鳥取県西部の地域性を活かした農村地域づくり

市南文一\*

## Management of Rural Region in Association with Its Regionality of the Western Part of Tottori Prefecture

Fumikazu ICHIMINAMI\*

(Received October 31, 2000)

In this paper the brief history, the status quo and the problem of regional management in association with its regionality were examined in Yodoe town and Mizokuchi town in the western part of Tottori Prefecture. These areas have the focus of Yonago city. Mt. Daisen and Kaike-spring have been well-known, and Tottori Flower Park recently attracts many tourists. However, agriculture also flourishes remarkably in these areas. Although Yodoe town has been celebrated for the waters and traditional umbrella, the town management recently makes the most of acorn and ancient tombs, giving emphasis to international relations and history. In Mizokuchi town the oldest legend of ogre has been investigated intently and the town management in connection with it has been proceeded. As these plannings use their histories and features peculiar to the area as a management concept, they have high originality. As a future problem, it may be necessary to built up a closer connection and coordinate each regional functions within the extensive areas.

*Key words: The Western Part of Tottori Prefecture, Rural Area, Regionality, Regional Coordination of Functions*

### 1 はじめに

鳥取県西部の調査への著者の直接的関わりは、1980年代後期の「ふるさと大山ふれあいリゾート構想」の実現をめざした大山山麓の観光資源調査や、1990年代の初期からの鳥取県の自然環境の保護に関する調査補助であった。前者は鳥取県西部全体に及ぶ広域的な計画であったため、バブル景気の崩壊後、通称「リゾート法」を梃子にして観光で地域開発をはかる方式の振興策が退潮していく中で、計画にほぼ沿う格好ですすんだ区域や、妻木畷田遺跡のように当初には全く予想しなかった方向に進みつつある区域など、多様な展開をみせている。著者は、鳥取県西部の地域計画の動向を以前にまとめたことがあるが(市南, 1991)、米子自動車道がその後開通するなど、当地域を取り巻く状況が変化している。

本稿の目的は、上述の経緯をふまえて、鳥取県西部(図-1)を事例とした農村地域の比較的新しい若干の地域づくりを取り上げ、現地調査を交えて地域性の活かし方を検討することである。

### 2 最近の観光・交通事情の変化と鳥取県西部の概観

#### 2.1 最近の観光・交通事情の変化

最近、鳥取県内の各地に観光施設が整備されてきた。これらの中で、日本海を取り囲む諸国との国際交流、環日本海交流を強く意識して、東郷池の南岸に1995年7月に整備された中国庭園の燕趙園が一躍人気を博し、新しい観光地になっている。隣接して、多目的温泉施設のゆアシス東郷龍鳳閣がある。東郷町を初めとして、倉吉市や関金町などの鳥取県中部と岡山県との交流には、鳥取県内で急勾配で屈曲が激しい犬狹峠を従来、通過しなければならず、冬季の積雪時には交通の難所であった。しかし、長さ2,626mの犬狹トンネル(国道313号線)が犬狹峠の東に1997年3月に開通したため、交通事情が格段に改善され、岡山県の蒜山高原と鳥取県中部の倉吉・三朝方面を結ぶ観光バス路線の選択枝が増加し、鳥取県西部に関係する交通流にも変化が出ていることが考えられる。

鳥取県の主要な観光資源・施設は、鳥取砂丘、大山、および県内各地の温泉である。このうち、鳥取県西部の

\* 岡山大学大学院自然科学研究科資源管理科学専攻

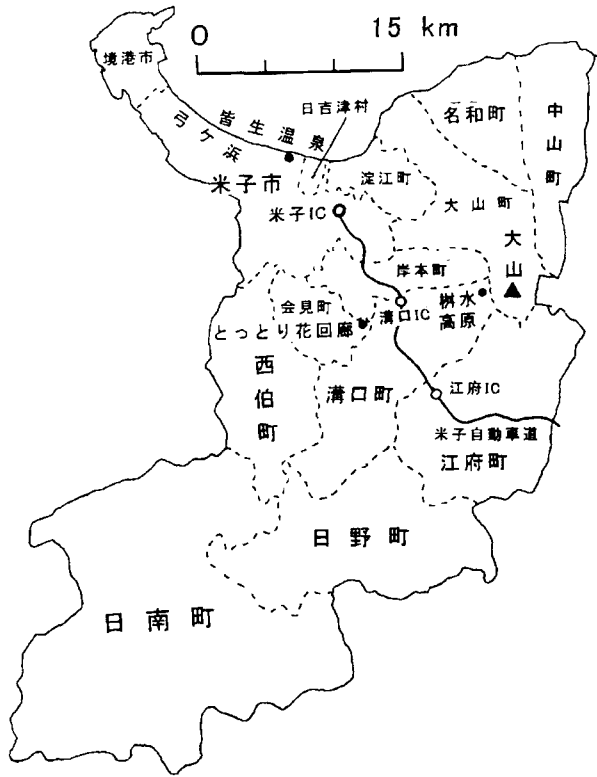


図-1 鳥取県西部と市町村

大山への年間入り込み観光客数は約 200 万人である。大山山塊に抱かれた山・川・滝・海といった貴重な地形や生物などと、それらを活かしたスキー場などがあり、登山・ハイキング・キャンプ・ドライブを通じて自然景観

を享受したい潜在的な需要に支えられている。観光客の年次変化は比較的少ないが、皆生温泉への観光客の増加が顕著である。1992年12月に、米子自動車道が中国縦貫自動車道に接続して開通したことにより、観光客が山陰地方の西部へ到達する時間が格段に短縮した。また、境港の夢みなと博覧会（山陰経済経営研究所、1998）が1997年夏季に開催されたり、1999年4月にはフラワパークとっとり花回廊が開園するなど、さまざまな変化がみられる。

次に、高速道路米子自動車道の鳥取県内のI.C.の通過台数の推移を分析する。車種別では、約4分の3が普通自動車で、残りは軽自動車、中型車、大型車などである。日平均のI.C.別出入り交通量を、図-2に示す。1997年の夏季には、ジャパンエキスポ山陰夢みなと博覧会が境港市で開催されたために、とくに米子I.C.の数値がかなり大きくなった。これを考慮すると、各I.C.を通過する交通量には若干の変動幅があるが、各I.C.が担う交通量にはほぼ一定の規模があり、米子で約5,500台、溝口や江府では約1,000台であることがわかる。これらの数値には、通過交通量も当然含まれており、他県から流入する観光目的の自動車ばかりではないものの、近くの観光地ではこれらの交通量を一応の目安にして、入り込み客の獲得戦略を練ることができよう。

しかし、2001年春に自動車専用道路「安来道路」（安来市吉佐町～東出雲町出雲郷）が開通すると、すでに開通している米子道路（淀江町今津～米子市陰田町）と松江道路（東出雲町出雲郷～玉湯町布志名）に接続することになり、現在、約1時間を要している米子～松江間の時

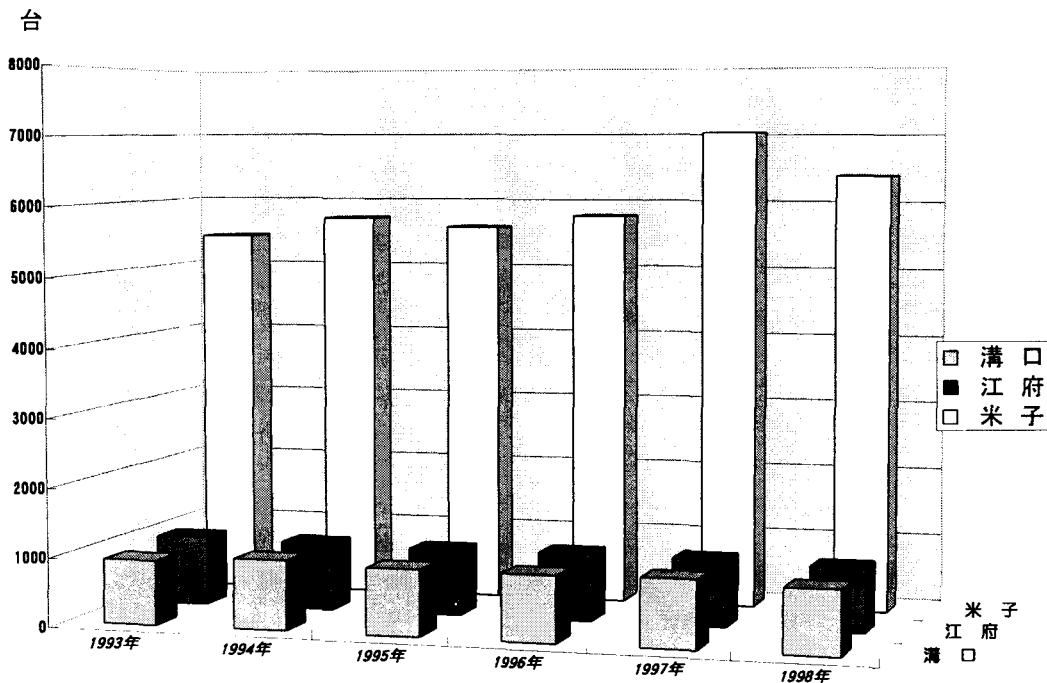


図-2 I.C. 別の日平均出入り交通量の推移

日本道路公団中国支社米子管理事務所の資料により作成

表-1 米子市への通勤・通学の流入人口の変化

	1975年	1995年	変化
米子市での 従業・通学者	78,832人 (100%)	91,122人 (100%)	12,290人
米子市内に 常住	61,584人 (78%)	67,859人 (74%)	6,275人 (-4%)
自宅	15,964人 [26%]	9,986人 [15%]	-5,978人 (-11%)
自宅外	45,620人 [74%]	57,873人 [85%]	12,253人 (11%)
他の市町村に 常住	17,248人 (22%)	23,263人 (26%)	6,015人 (4%)

各年次の国勢調査報告により作成。

間距離は20～30分に短縮されることが予想される。観光客の増加とともに通過観光の増加も予想できるので、多くの来訪者を歓迎するには、今後の地域づくりが一層重要になってくる。

## 2.2 鳥取県西部の概観

鳥取県西部は、米子市・境港市・西伯郡の8町村・日野郡の4町で構成されており(図-1)、大山の南西から西を流れる日野川の流域におおむね一致する。人口は約24万人で、米子市を中心としたまとまりがよい範囲で、米子市への通勤・通学の流入人口の約4分の1は市外からである。この流入人口の約8割は鳥取県西部の市町村からで、1975年と1995年で比較すると、実人数では約6千人増加し、比率では22%から26%に増加した。米子市内に常住する人口も約6千人余り増加したが、米子市内での従業・通学者の全体に占める割合は78%から74%に低下しており、また、米子市内で自宅と従業場所が同じである人は、実人数・割合ともに減少・低下し、自宅外に居住する人が、実人数・割合ともに増加・上昇した(表-1)。

また、昼・夜間人口数とその比の変化(表-2)によると、ほとんどの町村で流出人口が流入人口を超えており、夜間人口が昼間人口を凌駕している。それらの第1位の流出先は米子市である。なお、1995年の日野町の昼夜間人口比は100未満になり、逆に、日南町のそれが100以上になったことが目立つ程度で、後に登場する淀江町や溝口町の昼夜間人口比は80台で、大きな変化はない。名和・日南・日野町の夜間人口は20年間で著しく減少したが、他の市町村のそれは増加し、全体の夜間人口も増加した。

以上のように、この地域の人口は米子市や境港市を核として着実に増加しており、通勤・通学人口の流動数は交通条件の改善に伴って増加した。

鳥取県西部地域では、1990年9月に生活・自然環境、安全性、健康・医療、福祉、教育、文化、消費などについて住民の需要をアンケート調査し、それにもとづいて多様な内容からなる第2次広域市町村圏計画を策定した

表-2 昼夜間人口とその比の変化

市町村	1975年			1995年		
	夜間人口 A	昼間人口 B	昼夜間人口比 (B/A)×100	夜間人口 A	昼間人口 B	昼夜間人口比 (B/A)×100
米子市	118,332人	130,805人	111	134,728人	148,078人	110
境港市	35,821	37,134	104	37,365	37,620	101
西伯町	7,750	5,988	77	8,366	6,505	78
会見町	3,660	2,691	74	3,979	2,774	70
岸本町	5,485	4,175	76	7,100	5,512	78
日吉津村	2,342	1,726	74	2,760	2,192	79
淀江町	8,191	6,789	83	9,094	7,502	82
大山町	7,719	6,457	84	7,781	6,569	84
名和町	8,455	7,170	85	5,576	4,435	80
中山町	6,006	5,040	84	7,382	7,005	95
日南町	9,730	9,207	95	4,921	5,245	107
日野町	6,362	6,814	107	4,316	3,716	86
江府町	5,025	4,306	86	5,609	4,845	86
溝口町	6,002	4,909	82	7,205	5,829	81
計	230,880	233,211	101	246,182	247,827	101

各年次の国勢調査報告により作成。

(鳥取県西部広域行政管理組合編, 1991)。その結果の一部を総括すると、西部圏域の優れている点では、「大山・弓ヶ浜などの美しい自然」が圧倒的多数を占めており、これに次いで、「米子市を中心とする交通の要衝性」、「豊かな水産物」、「米子市を中心とする商業の賑わい」がくる。また、西部圏域の問題点では、「若者の域外流出」、「人口の伸び悩み」、「高齢化がすすみ活力がない」など、人口の側面があげられている。次いで、「先端技術を活用した工場が少ない」、「観光・リゾート資源が活用されていない」など、産業基盤の弱さや資源の未活用が指摘されている。今後、力を入れるべき産業では、先端技術を活用した工業や観光産業を指摘する人が多く、次いで情報・その他の支援サービス業、農林業があげられている。

産業別の就業者比率のうち、米子市と境港市の2市の第1次産業就業者比率は1975年では12%程度であったが、1995年には1割以下になった。1975年には、ほとんどの町村の第1次産業就業者比率は3～5割を示していたが、1995年には1～3割に低下した。しかし、半数以上の町村のそれは25%以上であり(図-3)、第1次産業は相変わらずこの地域の基幹産業の地位を保持しているといえる。これらの地域では第2・3次産業の比率が次第に増大しており、第1次産業のそれを凌駕し、なかでも第3次産業就業者の比率が5割を超えるのは6市町村にのぼる(細かな数値は略)。

このように、鳥取県西部でも第2・3次産業就業者比率が増加し、第1次産業就業者比率が低下しているが、国土保全や農地の持続的利用の観点からも、第1次産業やその就業者を軽視することは適当ではない。また、図-3の第1次産業就業者比率には、兼業で第1次産業に従事する人はほとんど含まれていないと思われるので、農業・農村が多くの兼業農家によって維持されている現実を勘案すると、農業や林業には統計数値で示される以上の重要性があるものと考えらるべきであろう。

この一端を表-3で提示してみる。日南町を初めとする5町が7割以上の林野率を示し、経営耕地率が25%を超えるのは日吉津村など、4市町村ある。1戸当たり経

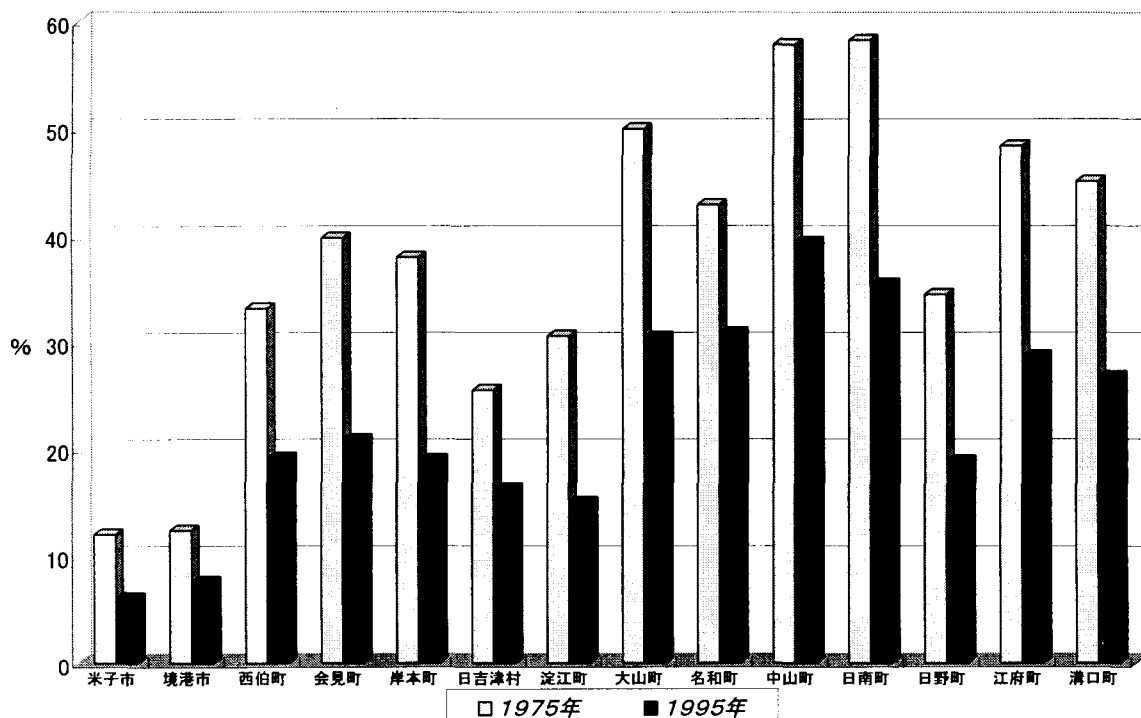


図-3 第1次産業就業者比率の変化

各年の国勢調査報告により作成.

表-3 鳥取県西部地域の農業の概要

市町村	林野率 %	経営耕地率 %	1戸あたり経営耕地面積	基幹的農業従事者	専業農家数	第1種兼業農家数	第2種兼業農家数	農家1戸当たり生産農業所得
米子市	16.8	25.6	66 a	3,487人	486戸	511戸	2,835戸	969千円
境港市	2.3	11.6	49	717	124	112	290	1,428
西伯町	80.3	8.0	66	574	107	67	835	564
会見町	65.5	16.7	95	387	41	40	464	1,068
岸本町	47.0	17.8	91	626	70	88	630	915
日吉津村	1.9	45.0	74	229	18	18	214	740
淀江町	46.9	25.4	95	579	57	114	514	1,222
大山町	61.9	15.1	114	1,102	134	211	773	1,465
名和町	44.5	28.4	122	1,139	161	245	639	1,474
中山町	59.1	19.7	137	1,173	157	241	469	1,882
日南町	90.0	3.5	85	785	204	163	1,025	837
日野町	89.7	2.8	56	360	98	66	498	409
江府町	83.1	5.2	85	641	112	92	548	669
溝口町	77.4	6.8	78	808	124	78	675	651

1995年農業センサス, 平成7年生産農業所得統計による.

林野率: (林野面積 / 総土地面積) × 100

経営耕地率: (経営耕地総面積 / 総土地面積) × 100

1戸当たり経営耕地面積: (経営耕地総面積 / 総農家数) × 100

営耕地面積では, 1 ha.以上が3町, 0.8~1 ha.が5町もある。経営規模では, 日本では中規模以上の農業地域である。基幹的農業従事者数では千人以上の市町もあり, 専業農家数や第1種兼業農家数でも, それぞれ, 百戸以上の市町も少なくない。また, 農家1戸当たり生産農業所得の平均は, 必ずしも高くないが, 百万円を超過しているのが6町ある。以上のように, 当地域では農業では際だった特色はないかも知れないが, 農地や労働力の点からは, 堅実な農村であることがわかる。

産業誘致・振興では, 米子市の近郊で工場団地を整備し, 企業誘致や労働者のUターンの促進事業に相変わらず努めているが, 大・中都市圏との競合があるので困難な面も多い。一方, 農林業では, 土地改良・圃場整備・農林道整備・中山間地域農村活性化総合整備, 農業構造改善・畜産基地建設・山村振興・灌漑排水・溜池整備などの生産基盤に関するものや, 農村地域の生活に関する総合整備的な事業など, 多様な事業を導入してその育成・維持を目指してきた。しかし, 第1次産業就業者は

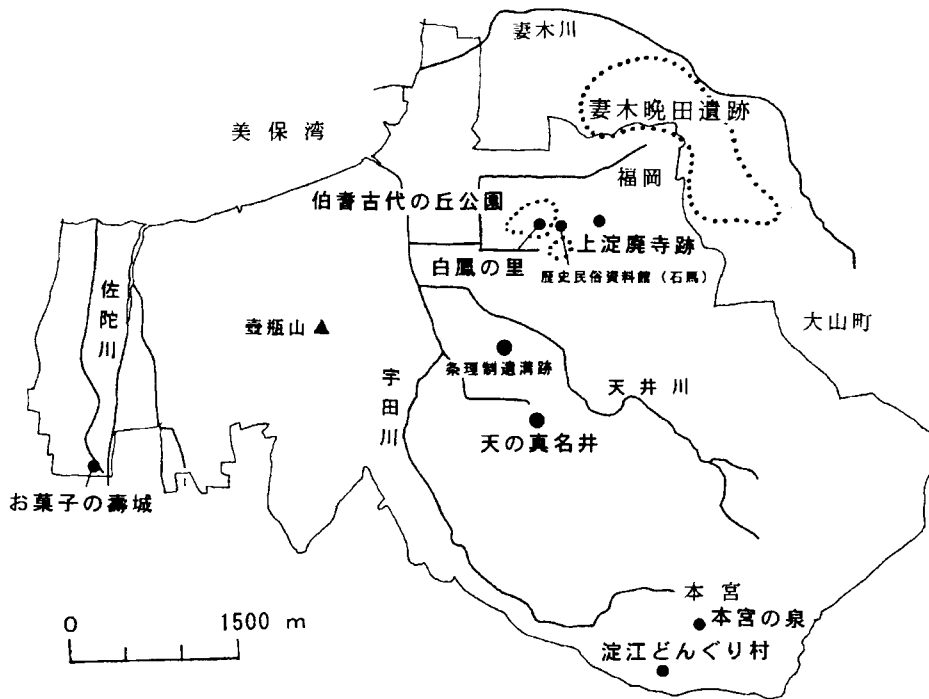


図-4 淀江町の名水と古墳などを活かした町づくり

漸次減少しつつ高齢化しており、公共事業の全般にわたって効果に対する的確な評価が問われている。このような状況で、観光、スポーツ・レクリエーション、公園に関して、各地域ごとに際立った特徴をもつ事業が導入されている。鳥取県では西尾前知事の時代から全県公園化構想に基づいて自然を活用した公園・緑地の整備をすすめ、各種の施策を推進してきている。次に、この点に関連が深く特徴的な事業で、町の活性化をはかっている若干の事例を紹介して、農村地域の持続的運営を考察する。

### 3 淀江町の町づくり

#### 3.1 淀江町の地域性

高速自動車道の米子 I.C. を降りてしばらく北進すると、米子城の天守閣の形状を再現した通称「お菓子の壽城」が右側に見え、団体客の観光バスなどで賑わっている。この施設は、和菓子の壽製菓の菓子の見学工場で、土産品の直販コーナーや展望台があり、山陰の新観光名所にもなっている。壽城は、事実上、大山とともに米子地域の観光シンボルであるが、その位置は淀江町にあり、町の南玄関になっている（図-4）。

淀江町では、和傘（淀江傘）、名水が古くから知られているが、その後、二十世紀梨、葉タバコ、プロイラーが加わり、近年では、これらに古墳、どんぐり、ニンジンが加わってきた。このほかにも、清酒・米焼酎・醤油・日本茶・イチゴ・メロンなどもある。古墳は発掘調査の進展につれて、その重要性が次第に認識されてきた。また、秋冬どりの洋ニンジンは、淀江町と米子市の弓浜部

において主に葉タバコの後作として栽培されており、最近では東接する大山町にまで、栽培が拡大する勢いがある。

鳥取県や米子市が対岸地域との日本海を囲んだ国際交流に取り組んでいる中で、淀江町では町の特徴としてどんぐりの育成を企画している。これは、縄文・弥生・古墳時代の遺跡が付近から出土している地域文化の特色の一つと自然・健康食指向の素朴さを勘案すれば、どんぐりで地域おこしに長期的に取り組むことが適切であると考えるからである。

淀江町は大山山麓に位置しているが、表流河川では佐陀川、宇田川、天井川といった小河川があるにすぎず、伏流水が湧き出る場所が多い。1985年度から1993年度にかけて自然公園整備事業の一環で、日本名水百選（環境庁指定）の天の真名井、本宮の泉で、名水公園を整備した。高井谷集落では、天の真名井から流れる水で水車を回し、米を搗いている。また、本宮の泉は1985年に因伯の名水に指定され、湧水量は約1万5千ℓ/日である。本宮の泉は大山山麓の末端部、鮮新世無班晶安山岩を不透水層として、その亀裂から湧水しており、古くから生活用水や灌漑用水に利用されてきたほか（樋口、1993）、鯉やニジマスの養殖にも利用されている。町内には、ほかにも、佐奈女の泉、田井の沼<sup>1)</sup>、湯口の泉（稲吉集落）が知られており、ワサビ栽培にも利用されている。

#### 3.2 水・古墳・どんぐりを活かした町づくり

淀江町内では、県の公園化構想を受けて、7つの自然公園化構想（歴史・名水・海浜・自然・果樹・近隣・運

動の7種類の公園)があり(淀江町, 1985), それにもとづいて既存の観光資源を生かし, 新たな特産品を開発していく方針があった. この構想が発展して, 平成3~22年度の壺瓶山ランドカルチャーパーク構想(50~60ha; (巨大温室公園, 芝生の大イベント広場, フルーツパーク, 星と宇宙体験施設, 温浴施設)を町が主体で実施する計画が生まれ, その後, さらに変化しているものと思われる.

このうち, 歴史公園整備事業の一環で, 1985年度から1993年度の予定で, 伯耆古代の丘公園の整備事業を実施し, さらに1994年度まで事業を1年間延長した. まず, 1985年度から5年間をかけて埋蔵文化財調査を実施した. さまざまな検討の結果, 1990年度に自治省の地域づくり推進事業の認定を受け, 1991年7月から1995年3月までの工期, 約14億6千万円の事業費(地方債が約74%, 残りは一般財源)で実施された.

1991年5月に金堂跡から法隆寺金堂壁画と並ぶ最古の寺院壁画が出土した上淀庵寺跡は全国的に話題になり, 1992年には金堂の東側に南北方向に3つの塔(実際には, 2つしか建立されなかった)が並ぶ建物配置が確認された. 上淀庵寺は現在から約1,300年前に建立され, 平安時代中期に火災で焼失したと考えられている(淀江町教育委員会).

その後, 周辺を整備して, 伯耆古代の丘公園を1995年4月にオープンした. 敷地面積が約97,000㎡, 建物としては管理棟である伯耆古代の館と学習棟の古代体験の館, 主要施設では, 中央公園, 向山公園, 瓶山公園, 石馬谷公園, 駐車場がつけられた. 内容では, 竪穴式住居, 弥生時代中期の高床建物を復元した弥生村, 古代ハス(7~8月に開花)の園, 火おこし・土器・土笛・埴輪・勾玉づくりが体験できる古代体験の館, 万葉の園, フィールドアスレチック, 種々の古墳<sup>2)</sup>などがある(写真-1). 管理は, (財)町教育文化事業団に委託しており, 実質8人で運営している.

伯耆古代の丘公園に隣接する特産館「白鳳の里」<sup>3)</sup>も1995年4月にオープンし, 名水・豆腐・そばなどを製造・販売している. 名水とうふ料理, どんぐり料理, ニンジン羊羹<sup>4)</sup>, そば茶なども扱っており, 環日本海交流を意識してとくにトトリ(韓国語で, どんぐりの意で, 鳥取との掛詞になっている)商品の多様な開発に力を入れているほか, 団体・グループ客の宴会・会食にも対応できるようにするなど, 来世紀につなげる新規事業の開拓に非常に意欲的である. 従業員は当初, 淀江町内の在住者が多かったが, その後, 町外の人でも参画するようになっており, 町の特徴を町外の視点から冷静に分析できる人材が存在する点で好ましいことであるものと考えられる. 課題としては, この公園が内陸に位置しているので, 幹線である国道9号線などからのアクセスがややわかりづらいことで, 道路案内の表示の工夫が必要である.

また, 伯耆古代の丘公園の近くの田園では, 地域住民

が景観作物を栽培する試みが盛んで, 毎年, 1~3月の約2万本の水仙, 4~5月の約25万本の菜の花, ヒマワリ, 8月下旬から9月にかけての約50万本のソバ, 10~12月の約25万本のコスモス, 田植え前のレンゲなど, ミニフラワーパークとも言うべき花畑が地元の人々や観光客の目を楽しませている.

他方, 「淀江どんぐり村」(農林産物の直売施設や駐車場の整備)は主要地方道米子大山線に沿っており, その名前の通り, どんぐりの格好をした建物で(写真-2), 本宮の泉にも近く, 自動車で来訪するには非常に便利な場所に立地し, 大山を間近に望むことができる. この施設は, 1996年度に県の補助率が5割の「うるおいのあるむらづくり対策事業」の生活環境整備事業でつくり, 1997年度にオープンした. 管理運営の主体は本宮観光農事組合(組合員は24人で, 5万円/人のお金を拠出)で, 6人の従業員で午前10時から午後5時までレストランを経営しながら観光情報を提供したり, 「名水クレソン」などの淀江町の農産物を販売している. 農産物の販売登録者は約100人で, 毎週木曜日が休日になっている.

同事業の集落活性化促進事業では, 本宮集落の人々が主体になって, 集落計画を策定したり, 和太鼓・獅子舞といった伝統文化の保存伝承活動にも配慮しつつ, どんぐり交流会・どんぐりサミット・そば打ち道場のような都市農村交流活動などに力を入れることができるようにしている. 町役場と集落は, 知恵と工夫を凝らしてこのような事業に一体となって地道に取り組んでおり, 「淀江どんぐり村」は町の看板の一つであるとともに, 本宮集落の出店でもある.

最近では, 淀江町と大山町に広がる妻木晩田遺跡の発掘・保存が吉野ヶ里遺跡とともに注目を浴びてきた. 民間資本による当初のゴルフ場の開発計画地域内で, 弥生時代後期を中心とする700以上の建物がある集落や遺跡が発見された. 鳥取県は, ゴルフ場開発と遺跡保存の双方を実現させたい「共存」指向であったが, 県の計画が顧客の嗜好を満足させるには非現実的であることが明らかになり, 官民の間で土地買収費などの補償や責任をめぐって紛糾した(佐古和枝編, 1999). 解決に収斂させたのは, 複数の市民団体を統合して, さらに全国からの支持者を集めて, 保存を求める陳情・署名活動を展開した全国組織の「むきばんだ応援団」であった. 草の根レベルの市民運動が最終的には県を動かす, 保存が望ましいとする文化庁の一貫した方針もあって, 全面的な保存に結びつくことになる. 結果的には, 当初の開発優先の地域計画が転換期の時代の趨勢で撤回され, 自然環境や歴史を尊重する遺跡の全面保存の方針が決まり, 県は国の史跡の指定を申請した.

今後は, 淀江町から大山町にかけての地域をまとめて, 一体的に古代遺跡の里として一層の整備をはかり, 広く宣伝していくことが得策であろう.



写真-1 古代ハスの園と高床建物

筆者の撮影による。



写真-2 淀江どんぐり村

筆者の撮影による。

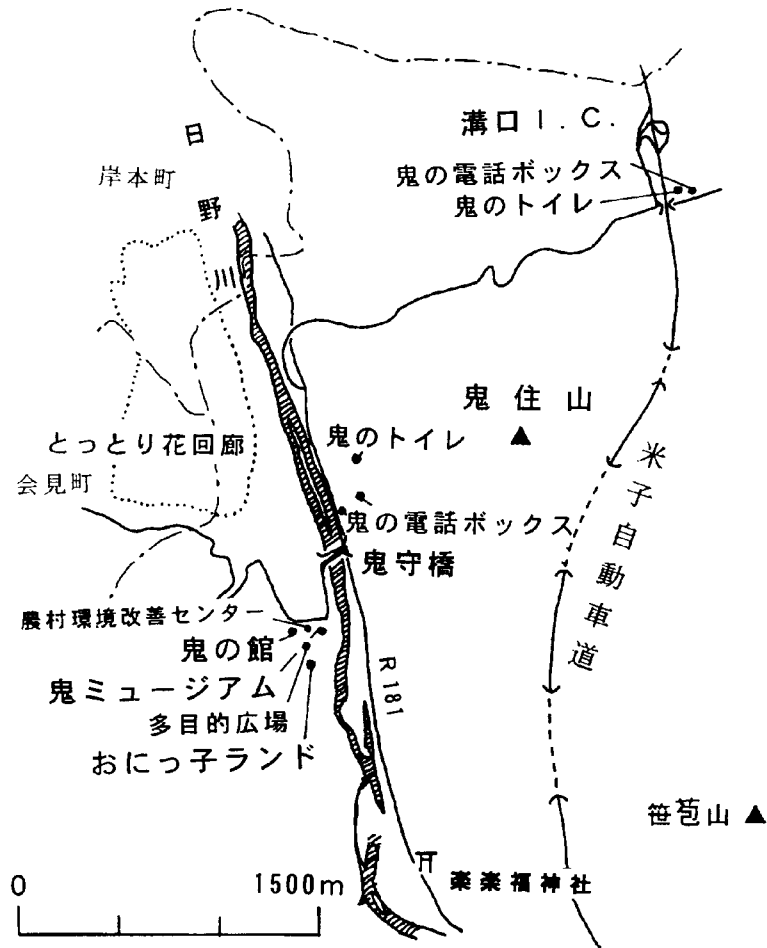


図-5 溝口町の鬼の里の町づくり

4 溝口町の町づくり

4.1 鬼にこだわった町づくり

溝口町では、従来、大山西麓の樹水高原のキャンプ場・スキー場（毎年12月23日にオープン）や、スイカ、メロン、白ネギ、シイタケ、ワサビ、ジネンジョ、リンゴが知られているが、これに加えて町の伝承文化である日本最古の鬼伝説を見直し、核になるものを鮮明にして地域の活性化をはかる試みを展開している。

町の中央部にある鬼住山・笹すと山・薬薬福神社（宮原集落）にまつわる孝霊天皇の鬼退治伝説を活かして、鬼の里の町づくりをすすめている（図-5）。これは、「地方の時代」が叫ばれるようになって久しいが、これに相応しい事業を地方が主体的に推進すべく、町の伝承・歴史・文化を見直して、核になるものとして鬼を町のシンボルに確定して、活性化をはかる方針による。町では「鬼の里夢づくり事業」と題して各種の事業を適切に組み合わせて、表-4にみられるようなハード事業とソフト事業を展開している。鬼守橋の群鬼、鬼の顔の公衆トイレ・鬼の電話ボックスなどが町内に設置され、1996年には鬼

表-4 鬼にちなんだ溝口町の諸事業の経緯

年次	事項
1932年	鬼守橋が完成。
1978年	鬼住山緑地等休養施設事業。
1991年	県道の改良工事で鬼守橋を架け替えし、10体のブロンズ製の群鬼を設置。
1994年	鬼のシンボルマークを制定。
1996年	鬼の像、鬼ミュージアム、鬼の館が完成。
1997年	おにっ子ランド、多目的グラウンドが完成。CATV 鬼の里テレビ溝口が放送を開始。全国鬼サミットを開催。
ハード	公衆トイレ、公衆電話ボックス、鬼の館、鬼ミュージアム、鬼の像、遊学館、鬼の里テレビ溝口、おにっ子ランド、マンホール蓋、鬼住山鬼の伝承公園
ソフト	シンボルマーク、鬼を語る会設立、鬼面太鼓の創作、「鬼住山ものがたり」の発刊、町民ミュージアム

溝口町の資料により作成。





写真-3 ミュージアムに腰掛ける鬼の像

筆者の撮影による。

のシンボルマークを全国から公募して大賞を選び、同年3月には、町の新しいシンボルともいべき鬼の像（ミュージアム）が町単独の事業で完成した（写真-3）。高さが26mで日本一の鬼のブロンズ像がミュージアムに腰掛けており、3階建の展示室がある。大ききゆえに、国道181号線からは見事なランドマークになっている。また、鬼の伝説に関する調査が綿密にすすめられた（鬼住山ものがたり編集委員会編、1994）。

鬼の館は、文化交流の拠点施設として活用することを目的に建設され、1995年10月に完成した。地下1階・地上3階の土蔵白壁造りの多目的ホール（ステージ、客席は400席）で、ピアノ室もある（表-5）。鬼の館に隣接して、農村環境改善センターがあり、農業技術を普及させ啓蒙する拠点施設、町づくりにも利用できる研修施設、農村多元情報システムであるケーブルテレビの放送スタジオになっている。

おにっ子ランド（農村公園）・多目的広場は、日野川沿いの自然の中に、親子がふれあう施設を提供し、生活空間の充実、地域の活性化と若者の定住化の推進に貢献すると考えられる。施設の概要は、列車、ローラーすべり台、池、水路、水車小屋、大型遊具、野外ステージ、証明設備付きのグラウンドであり、1992～1997年度の県営南大山地区中山間地域総合整備事業の農村生活環境基盤整備事業などで造成された。農村公園の列車とローラーすべり台のみは廉価な利用料がかかるが、ほかは無料であるので利用しやすい。農村公園の難点は、敷地がやや狭いことであろう。

また、照明設備付きの多目的広場（グラウンド）の利用需要が大きいため、駐車場を拡幅させる計画がある。溝口町では、これまで町の広場がなく、町民運動会・球技大会などは学校の運動場で開催していた。また、町民の憩いの場として公園整備の要望が以前からあった。これらの事業は、若者の定住対策を町の課題としていることから、豊かな自然に囲まれて心が安らぐ生活を支援できるものと思われる。

おにっ子ランドと鬼ミュージアムは、町直営の財団法人である溝口町観光開発事業団（7人を配置）によって管理されており、有料入場者の概数は1996年で3万人、1997年で6万人、1998年で3万2千人であった。これらの施設で若干懸念されることは、町債の比率が高いことであるが、鬼にこだわった独自の地域政策の特色がはっきりしていることは評価できる。

#### 4.2 とっとり花回廊との競合

しかし、1992年度から整備し始めた鳥取県立フラワーパーク「とっとり花回廊」がすぐ近く（大部分が会見町ではあるが、一部は岸本町、溝口町にまたがる約50ha.）の越敷野地区に1999年4月に開園した。越敷野地区は、フラワーパークの北西にある標高が226.5mの越敷山を中心とし、通称、越敷野台地と呼ばれ、標高が約200～250mの台地状の平坦面になっている。この台地の基盤は花崗岩で、これに鶴田玄武岩と呼ばれる鮮新世の玄武岩溶岩流が覆っている（加藤・市南、1993）。とっとり花回廊の整備の経緯は表-6に示す通りで、1994年から1995年に

表-5 溝口町字代の諸施設の比較

施設の名称	鬼の館	農村環境改善センター
建設目的	文化交流の拠点施設として、音楽・演劇・映画・講演会・展示会などに利用したり、町内の各種サークルの活動の発表の場になる。鬼サミットをCATVで町内の家庭に放送する。	農業技術の普及・啓蒙などをおこなう拠点施設、町づくりにも利用できる研修施設、農村多元情報システムであるCATVの放送スタジオ
施設概要	宿場町をイメージした、地下1階・地上3階の土蔵白壁造りの多目的ホール（ステージ、客席は400席）、ピアノ室	宿場町をイメージした2階建ての土蔵白壁造りで、研修室、視聴覚研修室、事務室、CATVのスタジオ、調整室
事業費	約7億円（町債（地域総合整備事業債・過疎債）が約89%、残りは一般財源）	約2億円（国庫補助金が50%、町債（過疎債）が約49%、残りは一般財源）
完成	1995年10月30日	1995年10月30日
施設の名称	鬼の像（ミュージアム）	おにっ子ランド、多目的広場
建設目的	鬼の里夢づくり事業のシンボル、鬼住山の日本最古の鬼伝説にちなんで溝口町を守る。	生活に潤いと安らぎを与えてくれる自然の中に、世代を越えて親子がふれあう施設を提供し、生活空間の充実、地域活性化と若者の定住化を推進する。
施設概要	鬼のブロンズ像（高さは26mで日本一）、3階建の展示室	列車（弁慶号）、ローラーすべり台、めだかの池、せせらぎ水路、水車小屋大型遊具、野外ステージ、証明設備付きのグラウンド
事業費	約6億円（町債（地域総合整備事業債・過疎債）が約90%、残りは一般財源）	約3.2億円（県営中山間地域農村活性化総合整備事業；県費が85%、町費が15%）、約6.5億円（伯耆の里夢づくり事業；町債（過疎債）が約99%で、残りは一般財源）
完成	1996年3月25日	1997年

溝口町の資料により作成。

かけて設計され、1996年には園名とシンボルマークなどが決定した。

また、表-7によれば、花回廊本体と道路を合わせた整備費は約178億円になった。用地取得や測量に始まり、造成・造園、さらには建築・展示関係の工事にわたり、あわせて道路が整備された。開発経費の規模は、すでに事例としてあげた近在の淀江町や溝口町の事業のそれと比較すると、2桁大きい。自由競争をすれば、大規模の予算で造成されたものが小さいものを駆逐しかねないので、今後はこれらが長期的に共存共栄していくことができるような連携を県と町の双方が工夫していくことが求められる。

フラワパークは、直径が50mで高さが21mの大温室であるフラワードーム・1周が1kmで屋根付きで全天候型の展望回廊・各種の庭園・大山を借景できることなどを

売り物とし、全県公園化構想の推進の拠点で、憩いの場を提供するほか、観光や花卉園芸の振興をはかる目的がある（写真-4）。この背景には、最近のガーデニングブームの追い風を受けて、日本人の生活に花卉園芸の浸透をはかることや、草花の栽培技術の普及、新たな花卉需要の創出と販路の開拓・整備をはかる狙いがあるものと考えられる。

とっとり花回廊の8,600㎡の植え替え花壇に必要な苗は44種類で、年間で約百万鉢であり、JA鳥取西部では1996年から供給体制の確立に努めてきた。中心になる花の種類はユリで、(財)鳥取県観光事業団が管理・運営している。初年度の観光客の足出は宣伝効果や物珍しさも手伝って予想以上に非常に好調であったが、課題は長期的にどうなるかであろう。周辺の市町村では、1999年度は観光客の多くをとっとり花回廊に吸引されることを予

表-6 とっとり花回廊の整備の経過

年度	事 項
1992	越敷野地区に建設地を決定 基本構想の策定
1993	基本計画の策定, 測量調査
1994	基本設計 (建築・展示) 実施設計 (造成・造園・連絡道), 用地買収
1995	実施設計 (建築・展示) 防災工事 (1995年8月~1996年6月) 造成工事 (1995年12月~1997年3月) 連絡道工事 (1995年8月~1999年3月)
1996	造園工事 (1996年12月~1999年3月) 建築工事 (1997年3月~1998年12月) 園名「とっとり花回廊」・シンボルマークの決定 マスコットキャラクターの図案の決定
1997	工事実施 マスコットキャラクターの名称の決定(ピロ・ポロ) 展示工事 (1997年11月~1999年3月)
1998	観光事業団 とっとり花回廊開園準備室の 開設 (1998年4月1日) 観光事業団 とっとり花回廊花卉センターの 開設 (同年6月1日) 設置管理条例の制定, 公布 (1998年10月1日) 入園料の承認 (1998年10月21日) 観光事業団 とっとり花回廊管理事務所の 開設 (同年11月1日) 工事竣工式 (1999年3月21日)
1999	開園 (1999年4月18日)

鳥取県農林水産部の資料により作成。

測し, とっとり花回廊との長期的な共存と観光客の回遊化に結びつける対策を検討していた。

溝口町が経営している施設では, ほかに榎水高原スキー場がある(図-1)。大山西麓に位置する榎水高原スキー場とリフトは, 1987年から5人で操業しており, 1993年度よりこれらに食堂(2人で担当)が加わった。スキー場の利用者の概数は, 1996年で2万人, 雪不足の1997年で1万人, 1998年で1万5千人である。また, リフトの利用者数の概数では, 1996年は55万人, 1997年は35万人, 1998年は40万人という数字がある。崩落が顕著な南側の様子とは異なり, 大山を榎水高原スキー場がある西側からみると, 緑の樹木・草本が豊富で, 険しさをあまり感じることがない。春から秋にかけては, ハイキングやパラグライダーなどをすることも絶好の場所である。

## 5 おわりに

地方分権に直結すべきである地方財政の基盤の充実や, 小人口あるいは過疎地域の経済的自立が必ずしも満身に

表-7 とっとり花回廊の整備費の概要

区分	内 訳	1993	1994	1995	1996	1997	1998	合計	
		年度	年度	年度	年度	年度	年度	金額	比率
本体整備	工事費 造成 造園 建築 展示等			7	6	23	25	13	7.3
				1	2	1	6	51	28.7
						1	1	7	3.9
	小計			8	9	61	51	129	72.5
道路整備	測量試験費 用地取得費 工事事務費等	1	3	2	1	1	1	9	5.1
			10	2				12	6.7
						1	1	2	1.1
	小計	1	13	12	10	63	53	152	85.4
合計	1	16	18	19	69	55	178	100	

鳥取県農林水産部の資料により作成。

注: 開園準備費, 管理運営委託費は含まれていない。

達成されていないにもかかわらず, 最近では, 独自性の高い地域計画が少しずつ実施されるようになってきている。第1次産業への就業者が減少している農山村では, 地域資源を活用した特産物を創造したり, 景観にも配慮したゆとりを感じる政策が実施されるようになってくると, 政策自体が住民に理解し易くなり, 役場や政治が身近に感じられるようになる。地域の発展のために有効な政策が実施されるべきであるが, 地域住民が政策に付随した自活努力をないがしろにしたり, 補助金に依存し過ぎる体質が抜け切らないならば, 長期的にみて地域の真の活力は育たない。

日本の農村地域開発の資金調達には, 行政主導で補助事業頼みであり, 国・県からの補助金で賄われない残りは起債で賄う方式である。起債の償還計画では, 入場料の単価や施設への入場者数の見積もりなどの経営計画の確実性, つまり, 収支計画の信憑性が問われる。したがって, 起債で賄う計画を地域住民にどのように事前に説明して了解を得るのか, その折のほかの地域行政の執行に支障を及ぼすことがないかなどが課題であり, 起債の相対的規模が常に問題になる(矢野, 2000)。

開発の理念・哲学が, 地元の自然環境, 特産物, 地場産業, 史実にもとづくゆかりの人々などに密接な関係をもっていけば, 地域開発の理念の持続性が期待できるので, その必然性やわかりやすさを十分に検討する必要がある。

農村地域は, 本来, 農業活動から得られる収入で生活していくことができることが理想であるかもしれないが, 兼業農家率が非常に高くなっている現状では, 農村生活の全体の中で, 農業の意義を広く考察することが必要である。

農産物の生産・販売以外に, 観光農園や見学・飲食などのサービス産業の要素を部分的に導入するにしても, 農村地域で観光・サービス産業が長期的に存続することを計画するのであれば, 観光客は中・近距離からの顧客を見込まねばならない。遠方からの顧客が何度も来訪してくれることは予想し難い。とくに, 施設に入場可能な市場人口の算定が重要であり, 長期的には, 遠隔地の人々

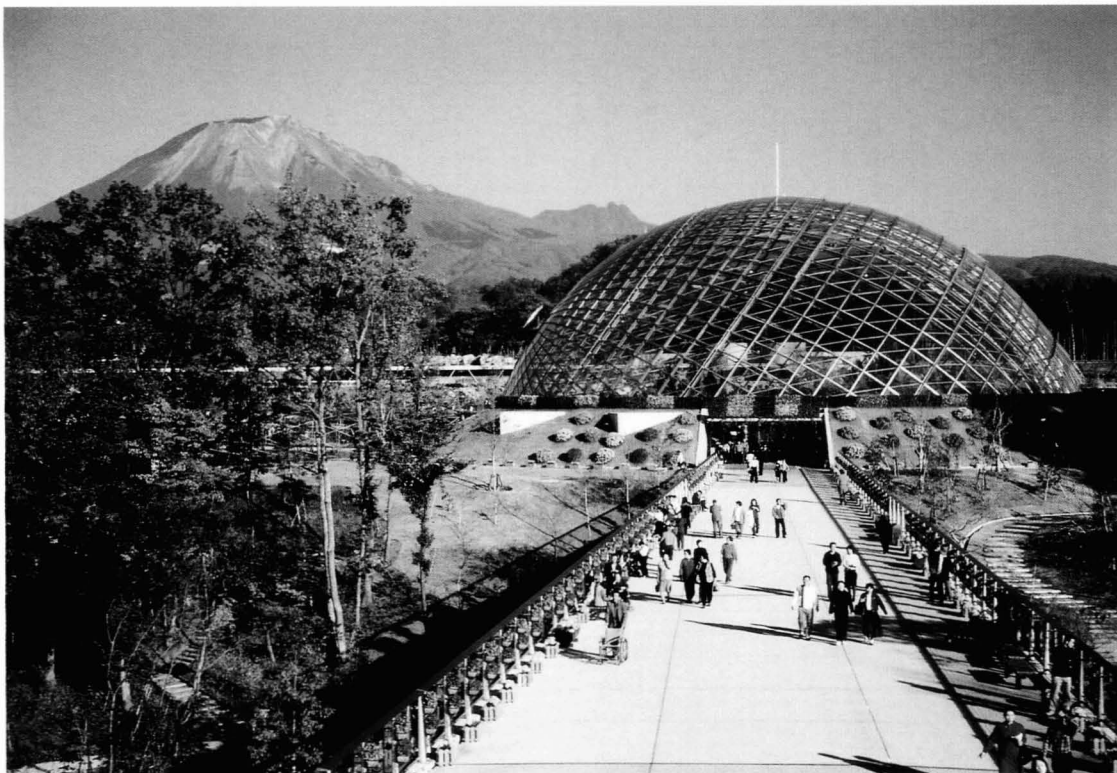


写真-4 フラワーパークと大山

筆者の撮影による。

は過大評価しても平均1回程度来場するとみるべきで、その施設と同じ日常生活圏内の近くに居住する人々が、いわゆるリピーターになると考えねばならない。これは、時間や経費の消費量を勘案すれば当然のことで、付随的には普段の宣伝・広告をどのようにするかが重要になる。

観光資源や施設の活用・造成による地域振興では、他地域との競合が一層、厳しくなっている。情報宣伝の効果を長期的に活かせるような仕掛けづくり、地域性への執着をわかりやすく伝達できる工夫が必要であり、その地域経営を持続することが基本である。先進地の事例のノウハウを学ぶための視察調査の実施は、従来から採用されてきた常套手段ではあるが、それを適切に活かし切れないと、物真似で終わり、やがては飽きられ長期的には廃れてしまうことにもなりかねず、真の独自性を発揮することにつながらない。また、行政の広域化を考慮し、地域機能の分担を検討して類似施設への投資の非効率や無駄をなくすことも重要かつ不可欠である。

農村地域は地域の自立を目指すべきではあるが、農村が都市から独立して発展することは現実には困難であり、都市との交流も必要である。鳥取県西部の場合、地元や近在の鳥取県中・東部、島根県、岡山県はもとより、四国や人口集積が顕著な広島都市圏、北九州都市圏、京阪神都市圏などは重要な顧客圏として重視しなければならない。ただし、中・遠距離にある都市部のみをあまり当てにし過ぎないことも肝要であり、永続的な繁栄の途を求めていくには、最寄りの都市などを巻き込んだ広域的

な日常生活圏の範囲で連携と機能分担が必要である。

農業では、篤農家などの知恵や先進技術を関係する農業従事者にすみやかに普及させる工夫が求められる。町などの公的機関が、その環境基盤を整備するために必要に応じて支援をすべきであろう。農協や森林組合なども地元の産業の特性とその意義を強く意識して、後継者を育成する試みを持続的に実行すべきである。

また、地域文化の振興などでは、当然、近接する市町村で連携することが必要である。この意味では、県境を越えて中国山地内で交流するエメラルドシティ<sup>5)</sup>などの取り組みは先見性に富んだ着実な活動である。

今回、紹介した鳥取県西部の淀江町と溝口町の事例の共通点には、地域振興の理念が他の場所の借り物ではなく、地元の産業や自然の特色を活かすという単純明快さと、地域に固有の歴史物語がある。これらは、地域性を素朴に反映した文化を発掘・探索・創造しているので、ゆとりを感じる景観を長期的・持続的に形成していく好事例になることができると考える。的確な先見の明を持ってそれらを順調に伸ばしていくことが至当であろう。

謝辞：現地調査では、淀江町役場、(株)白鳳、溝口町役場、鳥取県商工労働部観光課・農林水産部、日本道路団中国支社米子管理事務所などの関係者の方々に、貴重な時間を割いて調査に親切に応じていただき、資料提供を受けたり、あるいは案内していただきました。また、本稿のとりまとめには、岡山大学大学院自然科学研究科

の小野泰史氏のご助力を得ました。記して、以上の方々に厚くお礼を申しあげます。なお、本稿を執筆中に鳥取県西部地震が発生し、鳥取県西部・島根県東部・岡山県北西部をはじめとする広域的な範囲でかなりの被害が生じ、その後も余震が継続している。1日も早い地震の終息と地域の復興を祈念いたします。

#### 注

- 1) 福井集落の東にあり、古い淀江湖（豊島・赤木、1993）の名残をとどめているといわれている。
- 2) 入園料は大人が500円で、約10haの敷地内に前方後円墳が8基、円墳が2基、方墳2基などがあり、古墳が著しく密集している地域である。
- 3) 第3セクターである特産館「白鳳の里」は株式会社で、淀江町福岡に位置し、資本金が1億2千万円、株主は77人で、1994年6月に設立された。株式の保有割合は、行政などが50%、民間などが50%の共同出資である。構成員数には変動があるが、1998年では役員1人、社員（正10人、パート15人）であった。業種は、食料品製造販売業、飲食業で、具体的には、町内の名所や地名にこだわった商品を開発し、名水「真名井」・名水豆腐「上淀」・そばなどを製造販売している。  
とくに、国際交流を強く意識して開発したどんぐり（トトリ）商品には、どんぐり餅（1998年9月に全国観光土産品コンテストで入賞）、どんぐりもろみみそ、どんぐりこんにゃく、どんぐりコーヒー、どんぐりうどん（1995年に中・四国の物産展で入賞）、どんぐりそば、どんぐりパイ、どんぐりクッキー、トトリパイ、トトリ饅頭、どんぐりパン、どんぐりせんべい、どんぐりブローチなどがある。
- 4) ニンジン（ダイダイ）は淀江町の特産物で、葉タバコの後作として約80戸が秋冬どり品種の「向陽2号」を主体に栽培している。現地では、通称、砂丘ニンジンと呼ばれており、淀江町の他、米子市の弓浜部の砂丘地や干拓地で栽培されている。昭和42年に国の野菜指定産地になり、最近では、βカロチンを豊富に含む健康野菜としての宣伝で、ニンジンの需要が伸びており、現在では近くの大山町や中山町などでも栽培されるようになってきている。
- 5) 県境を意識せずに生活や文化の類似性に着目して、自然に共通的な活動を企画するエメラルドシティの事務局が日南町に置かれている。岡山（新見市・新庄村・大佐町・哲西町・神郷町・哲多町）・鳥取（西伯町・日南町・日野町・江府町）・島根（広瀬町・伯太町・横田町）・広島（西城町・東城町・比和町）の4県の16市町村で構成する「中国山地県境市町村連絡協議会」（通称は、県境サミット）。共通の文化的基盤は、たたら製鉄、和牛、製炭で、婚姻・商工などの交流がはかられた地域、中国山地の中央にきらめくエメラルドシティの創出を目指す。観光パンフレットの共同製作やジャズコンサートの共同開催、都市住民向けに「エメラルド倶楽部」の会員を募って機関紙を発行するなど、1993年より活動してきた。

#### 参考文献・資料

- 市南文一（1991）：鳥取県西部の近年の動向と地域計画について。鳥取大学教育学部研究報告（人文・社会科学），42-1，pp. 19-36。
- 加藤泰巨・市南文一（1993）：越敷野台地。豊島吉則・赤木三郎・岡田昭明編著「鳥取県のすぐれた自然—地形・地質編—」。鳥取県衛生環境部自然保護課，pp. 90-91。
- 鬼住山ものがたり編集委員会編（1994）：「鬼住山ものがたり—日本最古の鬼伝説から—」。溝口町，113p。
- 佐古和枝 編（1999）：「海と山の王国—妻木晩田遺跡が問いかけるもの」。『海と山の王国』刊行会，208p。
- 山陰経済経営研究所（1998）：「夢みなと博の贈り物」。山陰経済経営研究所，213p。
- 鳥取県西部広域行政管理組合編（1991）：第2次鳥取県西部新広域市町村圏計画。鳥取県西部広域行政管理組合，143p。
- 豊島吉則・赤木三郎（1993）：淀江町井手勝遺跡および周辺の自然環境。pp. 1-11。鳥取県教育文化財団調査報告書31一般国道9号米子道路埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ「井手勝遺跡」。
- 樋口和之（1993）：本宮の泉。豊島吉則・赤木三郎・岡田昭明編著「鳥取県のすぐれた自然—地形・地質編—」。鳥取県衛生環境部自然保護課，pp. 280-281。
- 矢野秀利（2000）：地方債の最適規模について。都市問題研究，52-7，pp. 68-83。
- 淀江町（1985）：水と緑と石馬のまち その⑤淀江町の自然公園化と観光。広報よどえ，No. 320。
- 淀江町教育委員会（発行年不詳）：淀江町文化財ガイド。淀江町観光協会，19p。